



## 理事会だより

### 4月 定例理事会

4月22日

#### ●協議事項

- 第60期貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表、事業報告、附属明細書の承認及び監査報告書について
- 第60期部門別損益計算書の承認について
- 第60回通常総代会について

令和3年度下期監事監査報告書提出について

#### ●報告事項

- 反社会的勢力排除対応管理先対応状況報告について
- 疑わしい取引の届出書について
- 職員給与改定について
- 決算監査に伴う資産自己査定結果の修正について
- 登録金融機関業務に係る自主点検について

### 4月 JAの概要

|       |                        |
|-------|------------------------|
| ・組合員数 | 《正》4,401人<br>《准》6,056人 |
| ・貯金   | 1,140億3,554万円          |
| ・貸出金  | 329億8,789万円            |
| ・共済   | 195万4,500ポイント          |
| ・購買   | 4億6,629万円              |
| ・販売   | 5億5,754万円              |
| ・茶市場  | 4億8,527万円              |
| ・緑茶加工 | 9,272万円                |
| ・出資金  | 7億7,873万円              |
| ・固定資産 | 44億9,124万円             |

生産数量は、3年連続で側芽の伸びが悪く減産傾向でしたが、降雨が多かったことから芽伸びが進み、数量の確保ができました。しかし、平年に比べて生葉水分量が多く、歩留まり率は平年に比べて低い結果となりました。品質面では、早生品種が順調に生育し品種の特性が良く出ていました。茶期前半の降雨により摘採及び製造に苦勞し品質が安定しませんでした。その後は地域及び工場間の品質格差が少なく、深蒸し掛川茶らしい良質茶が安定して生産されました。

掛川市北部地域で、有機茶専用工場「かけがわ有機の郷(さと)」が設立され、本年度の一番茶より操業が始まりました。有機栽培茶の需要は多く、茶商社より高い評価を受け生産時期の早い遅いに左右されず有利販売をすることができました。現在、SDGsやみどりの食料システム戦略への取り組みが進められている中、有機栽培茶の需要の高まり、栽培面積拡大に期待します。

の下げ止まりがないまま、おおむね1,000円前後で5月9日には大方の取引が終了しました。

### 生産数量・品質にも降雨の影響

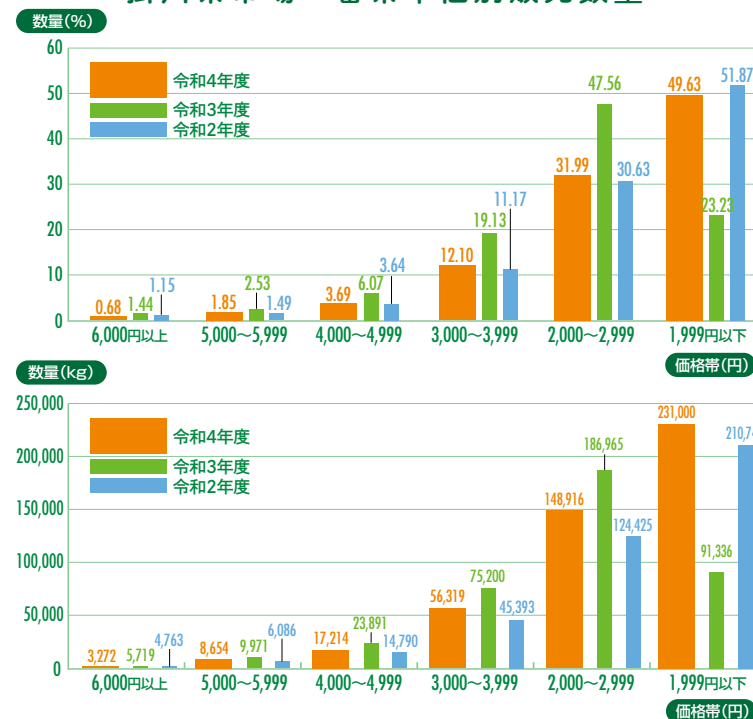
5・1kg(前年比118%)で、前年度より72,293・1kg増加ですが、平均単価は2,208円(前年82%)で487円安となり、取扱金額で10億2,712万円(前年比97%)と前年度より3,181万円減の結果となりました。

### かけがわ有機の郷が操業

| 掛川茶市場一番茶取扱実績 |           |           |           |        |
|--------------|-----------|-----------|-----------|--------|
| 年度           | 令和4年度     | 令和3年度     | 令和2年度     | 前年対比   |
| 数量(kg)       | 465,375.1 | 393,082.0 | 406,783.0 | 118.3% |
| 金額(千円)       | 1,027,712 | 1,059,528 | 886,777   | 97.0%  |
| 平均単価(円)      | 2,208     | 2,695     | 2,180     | 82.0%  |

\*金額・単価は粉引後

### 掛川茶市場一番茶単価別販売数量



# 茶期前半の降雨が生産・販売に影響 品質重視の仕入れ姿勢に

令和4年度 ● 一番茶実績報告

### 平年並みの市場開きに

昨年度は、掛川茶市場開設以来過去2番目に早い4月16日に新茶初取引となりましたが、本年度は平年並みの4月21日に市場開きを行いました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、JA茶業研修センター屋外にて式典を開催しました。

ここ2年は新芽も順調に生育したため、平年に比べ上場数量も多く活気ある新茶初取引が行われました。上場数量は、昨年度の22口3,088kgに対して18口2,894・1kgで、平均単価は5,445円と昨年を133円上回りました。凍霜害などの被害もなく順調に生育したこと、八十八夜商戦に十分対応でき、近年の減産状況から茶商社の在庫は適正であり有利販売に期待が持てました。一方で、長引く新型コロナウイルスの影響から特に業務需要の減少が大きく、先行きが不透明の中で新茶取引が始まりました。

### 雨間をぬつての摘採に

茶期前半は、平年に比べ気温も高く推移し降雨も多かったことから、刈遅れとならないよう雨間をぬつての摘採となり、市内全域で生産が開始されました。不安定な天候により品質が安定しないことで、品質重視の選別仕入れ姿勢が一層強まりました。一番茶総数量に対し、4月末までの取り扱い数量が31・6%と、平年より若干早い進捗状況となりました。

中盤以降は天候に恵まれたため、順調に収穫が進み刈遅れによる極端な硬葉化による品質低下はありませんでした。生産数量が増加したことで底値

